

関連項目：教育活動プラン⑥

生活目標の達成に振り返りカードを使って主体的に取り組む

目的

本校の児童は、明るく活発で思いやりのある行動を常に心がけていますが、自尊感情をさらに高めることが課題です。そこで、児童一人ひとりがクラスで話し合った生活目標の取り組みについて毎日評価し、その成果や課題の原因を自分で考えたり、保護者の励ましをもらったりすることで、自分自身の生活を見直し、より伸びようとする児童を育てることにしました。

内容

● **児童会と連携して、生活目標を決定**

毎月の生活目標を、「あいさつ」・「ほくほく言葉」・「掃除」・「廊下歩行」の4つに絞り、1年を通じて生活目標の徹底を図る。4つの生活目標をそれぞれ年間2～3回設定するが、内容を少しずつ変える。

生活目標の例（あいさつ編）
 4月 笑顔であいさつをしよう
 9月 自分から笑顔であいさつをしよう
 1月 気持ちのよいあいさつをしよう

● **生活目標に対する各クラスの取組の話し合い**

生活目標を受けて、各クラスでどのように取り組めば達成できるかを話し合い、代表委員会や朝礼で周知する。また各クラスの合言葉を決め、教室に掲示する。

* 話し合いの時のポイント

ただ、取り組み方を決めるのではなく、「『ほくほく言葉』にはどんな言葉があるか」や「時間いっぱい掃除をするというのは、どうすることなのか」など学年・学級に合わせた具体的な言葉に直して話し合う。



<児童の振り返りカード>

● **帰りの会で振り返りカードへ記入**

児童一人ひとりが、「ほくほくファイル」をもち、それに毎月の生活目標振り返りカードを貼る。帰りの会で、一日を振り返り、カードに記入する。



1月生活目標「気持ちのよいあいさつをしよう」での取組
 以前は児童会の役員だけだったあいさつ運動に他の児童も参加し、あいさつの輪を広げた。

● **月末、各自で成果と課題を記入・保護者からのコメント**

月末に1ヶ月を振り返り、○が多くついたのはどんな工夫があったからか、△が多くついたのはどうしてか、では今後どうすればいいのかを考え、記入する。低学年は、文章に書き表しにくいいため、顔の表情を絵に表すことにする。記入後、家庭に持ち帰り保護者から励ましのコメントをいただき、意欲化を図る。

● **次回の生活目標の取組に生かす**

前回の振り返りカードで工夫してよかったことや友だちの取り組みでまねしてみたいことなどを参考にし、前回よりレベルアップした生活目標の取り組みを考える。

成果

一人ひとりが生活目標を自分のものとし、実行につながる具体的な目標を考えることができた。そのため、言葉づかいやあいさつなど自分の行動を意識し、よりよくしていこうと努力する姿が見られるようになった。それがカードの数値化（例 ほくほく言葉の振り返りカードの○や◎の日数 5月→10月64%増加）に表れている。